

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立津東高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○変化の大きいこれからの社会で、自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を育成する学校 ○地域の進学校として「向学立志」の精神を大切にし、不断の進化と切磋琢磨に努め、地域の期待に応え続ける学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○学習や部活動、学校行事等に積極的、主体的に取り組み、高い目標を持って自らの良さを磨き、自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を身につけた生徒 ○学ぶことの大切さと喜びを会得し、豊かな人生と社会を築こうとする志を持つ生徒
	ありたい 教職員像	○基本的な生活習慣、確固とした基礎学力を土台に、自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を身につけられるよう、生徒に「本気の伴走」ができる教職員。 ○自らを磨くため高い目標を持ち、切磋琢磨に努め、不断に進化し続けようと努力し続ける教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> できれば国公立大学に進学したいと希望しており、それを実現できるよう、学力を付けられるわかりやすい授業を望んでいる。 <保護者> 子どもをできれば国公立大学に進学させたいと希望しており、それを実現するための授業力・進路指導力を期待している。 <地域・県民> 地域に貢献でき、学力に見合う豊かな人格と心を持つ生徒の育成、地域社会を担い、社会貢献する生徒の育成を期待している。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <保護者・PTA> 確かな学力と進路保障、豊かな情緒や人格形成をして欲しい。 <地域> 地域の活性化に寄与し、信頼できる学校となって欲しい。 <進学先（大学等）> 明確な目的意識と「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育んで欲しい。 <学習塾等学習産業> （中学生対象の学習塾）高校卒業後の進路状況などの情報提供をして欲しい。（高校生対象の学習塾）大学入試に向けた連携をして欲しい。	連携する相手への要望・期待 <保護者・PTA> 家庭での学習環境整備と学校教育活動に理解や協力をして欲しい。 <地域> 学校教育活動に理解や協力をして欲しい。 <進学先（大学等）> 生徒の進路希望実現のための情報提供をして欲しい。 <学習塾等学習産業> （中学生対象の学習塾）中学生保護者へ本校教育活動の情報提供をして欲しい。（高校生対象の学習塾）大学入試関連の情報提供をして欲しい。
(3) 前年度の学校関係者評価等	○新学習指導要領の実施に向けた準備と点検を行い、継続的に改善に取り組んでもらいたい。 ○ライフプランに応じたキャリア教育を確立、実施して欲しい。 ○学校行事の日程、内容、実施可否に至るまで精査した後、with コロナ時代に即した形に再構築していく必要がある。 ○現在の進路指導体制が共通テストに活かされているので、現在の取組を継続して実施してもらいたい。	

(4) 現状と課題	教育活動	○生徒の学校生活は落ち着いており、学習や部活動、学校行事に熱心に取り組み、満足度も高い。生徒は素直で真面目である一方、学校以外の世界をイメージすることが弱く、目標設定に物足りなさを感じさせることもある。 ○生徒一人ひとりへのきめ細やかで懇切丁寧な指導により、学習への意欲も高まり、国公立大学への進学者も増えている。加えて、今年度より実施の新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現し、探究活動を充実させることで、生徒の学びへの意欲を一層向上させる必要がある。
	学校運営等	○生徒一人ひとりに対するきめ細やかで懇切丁寧な指導は継続的に実施できているが、生徒の学力向上に資する取組や改善策等についての組織的な動きにやや課題がある。組織的な進学指導、キャリア教育を強化することで、生徒の学ぶ意欲と志を今以上に育てる必要がある。 ○生徒の学ぶ意欲と志を今以上に育てるため、「社会に開かれた教育課程」を実現し探究活動を充実させる必要がある。そのためには、外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力を向上させる必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	○生徒の学力（学力の三要素）を向上させるため、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に組織的に取り組む。 ○探究活動を充実させ、答えが一つでない問いを考える機会を増やす。そのために外部との連携を一層強化し、新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現させる。 ○生徒の進路希望実現のため、生徒の学習習慣の定着や進路希望への意欲向上のための「しかけ」や校内の「しくみ」について検討し、組織力を向上させる。
学校運営等	○学年、分掌で情報共有を密にする仕組みを再構築する。PDCAサイクルを回し、不断に進化する組織を構築する。 ○探究活動を充実させ、答えが一つでない問いを考える機会を増やす。そのための仕組みの検討とともに3年間の指導計画を検討する。 ○「社会に開かれた教育課程」を実現するために、外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力を強化する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」の育成（キャリア教育の充実）	○「総合的な探究の時間」を見直し、「答えが一つでない問い」を考える機会を作るとともに、「本気の大人」と出会うことで「自己の在り方生き方」を深く考える機会を作る。 ○生徒に様々な機会・方法で進路状況を提供し、視野を広げるとともに進路意識の向上を図り、志を実現するため高い目標を持って最後まで最大限努力する姿勢を育む。 【活動指標】 ・進路ガイダンスや進路講演会の実施 年間 1・2年生3回以上 3年生5回以上 ・保護者対象進路説明の実施 各学年1回以上	1年生に新しい探究活動「『自分らしく』プロジェクト」を開始した。自分の興味関心、日常生活での疑問、違和感等から、自分自身の問いを考える時間とした。その実現のために学校外の「本気の大人」を外部メンターとして招き、生徒への伴走をお願いした。 【進路ガイダンス・講演会】 1年2回、2年4回、3年3回実施 【保護者進路説明会】 1, 2年とも、2回実施 3年は6月に1回実施	◎ ※

	○基本的な生活習慣を確立させ、提出物の期限と時間を守る事の大切さを理解させ、行動が徹底できるよう指導する。 【活動指標】 ・全職員による登校指導 毎日実施 ・生徒会役員による挨拶運動 週2回実施 ○自分たちでより良い学習環境を作ることの理解の上に、掃除を徹底するよう指導する。 ○生徒会主体の学校行事づくり 生徒会をリーダーとして、できるだけ生徒主体で学校行事を作るよう努力する。特に、コロナ禍にあって、どうしたら安心安全で充実した学校行事を実施できるか、生徒と教員がともに考え、創り出すよう努力する ○いじめや差別を許さず、一人ひとりの個性の違いを認め、互いに尊重することができる仲間づくりを進めるとともに、望ましい集団や社会の実現に向けて行動しようとする意欲を育む。 【活動指標】 ・各学年 HRでの人権学習年間2回以上実施	【登校指導】 全職員による毎日の登校指導に、月1回 PTA も参加して実施している。 【挨拶運動】 ・生徒会役員による挨拶運動年間 4 回 全ての生徒が初めての中、一般公開はできなかったが、3 年ぶりに文化祭を開催できた。 HR・集会・特別活動・クラブ活動などでの指導を行っている。 【人権学習】 06 月 11 月日(火) 11 月日(火) 【人権講演会】 11 月 10 日(木) 講師:前川 楓さん	※
学習指導の充実	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブラーニング型授業を組織的に推進する。主体的・対話的で深い学びを実現するツールとして、ICTを有効活用する。 【活動指標】 ・教員研修 年間3回実施 【成果指標】 ・授業アンケートの満足度 80%以上 ○生徒の学習時間を把握し、学習習慣の定着・向上を図る。 【成果指標】 ・家庭学習時間 平日120分、休日180分 ○新学習指導要領下による最初の入試である令和7年度入試に向けて、引き続き情報収集し、教育課程及び指導計画の検討を続ける。	【教員研修】 7 月 19 日職員研修 「なぜ今、探究(マイプロジェクト)なのか」大正大学地域創生学部・浦崎太郎教授 11 月 18 日指導主事訪問 全体研修「探究活動について」 【授業アンケート】 満足度 1年:86. 5% 2年:81. 8% 3年:86. 7% 【家庭学習時間】 平日 1年生:87.3 分 2 年生:81 分 3 年生:258 分 休日 1年生:142 分 2年生:148 分 3 年生:395 分 管理職、進路主事、教務主任で検討後、学力向上委員会、カリキュラム委員会で検討を重ねた	◎※
進路希望の実現	○生徒に様々な機会・方法で進路情報を提供し、視野を広げるとともに進路意識の向上を図り、志を実現するため高い目標を持って最後まで最大限努力する姿勢を育む。 【成果指標】 ・共通テスト出願者 90%以上 ・国公立出願者数 160名	生徒自身が納得できる受験に向けて、3 年生に推薦入試プログラムを実施し、志を高める指導を行った 【共通テスト出願】 出願率92. 9% 国公立大学推薦試験出	◎

	○個人面談を充実させ、進路希望や学習状況などを正確に把握し、的確かつ継続的な指導を行う。 【活動指標】 ・個人面談 年間 1・2 年生 3回以上、3年生5回以上実施 ○奨学金制度の紹介や手続きを行い、経済的な面から生徒の進路希望の実現を支える。	願者(11月末〆切まで) 57名 【個人面談】 1年生:3回 2年生:2回 3年生:7回 予約奨学金の申込生徒数:137 名	※
安心安全な学校作り	○スクールカウンセラーをはじめとする外部機関との連携を密にし、生徒の心身の適切なケアを充実させる。 【活動指標】 ・教育相談係との連携 年間20回以上 ○ICTを活用した家庭との連携を強化し、情報提供等の活用を促進する。	【教育相談】 カウンセラー来校32日 カウンセリング実施回数 生徒27名、のべ125回 保護者9名、のべ18回	◎
改善課題			
校是「向学立志」(学ぶことの大切さと喜びを会得し、豊かな人生と社会を築こうとする志を持つ)を再確認するとともに「自分らしく未来を切り拓く力」を育成することを掲げた上、その実現のために1年次に新しい探究活動『自分らしく』プロジェクト」をスタートさせた。試行錯誤しながら進めてきたが、概ね生徒は生き生きと取り組んでいた。今後は、内容の整理と指導体制の整備、予算の確保が課題である。また、日頃の授業改善とリンクさせていくことと、3年間のキャリア教育(進路指導)の流れの整備が必要である。学校行事もコロナ禍で少しづつ以前に近い形で実施することができた。次年度は、より生徒の主体性を意識したものに改善していく必要がある。			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」の育成と学習指導の充実	○組織力の向上のため、学年、分掌、教科の縦横の連携を一層強化する。 【活動指標】 ・進路懇談会(学年と進路指導部の連携会議)の実施 年間 1・2年 5回以上、3年 10回以上 ○生徒に付けたい力を含む学校のビジョンを検討するため、学校ビジョン委員会を活性化させる。 ○生徒の学力向上と教員の授業力向上のため、学力向上推進委員会を活性化させる。 ○教員の指導力向上に向け、入試研究会・教科研修会に積極的に参加する。 ○「総合的な探究の時間」を見直し、「答えが一つでない問い」を考える機会を作るため、校内の仕組みを検討し3年間の計画	【進路懇談会】 1年:7回 2年:5回 3年:19回 2月8日現在 ビジョン委員会8回 学力向上推進委員会 4回実施 入試研修会・教科研修会に多数参加 1年生で探究活動「自分らしくプロジェクト」(全11回)を実施した。次年度は2年次まで広	◎※

	を再構築する。	げることを検討中	
「社会に開かれた教育課程」の実現	○「社会に開かれた教育課程」を実現し、生徒が「答えが一つでない問い」を考えるため、「本気の大人」の「本気の伴走」ができる体制を検討する。そのため、外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力を強化する。 【活動指標】 ・学校ビジョン委員会での議論 年間 10 回以上 ○学校関係者評価委員会やPTA役員会で、本校教育への意見をいただくとともに、協働に向けて努力する。 【活動指標】 ・学校関係者評価委員会 年間 3 回実施 ○HPや報道等での情報発信 【活動指標】 ・HP更新 月 1 回以上	「自分らしくプロジェクト」では、外部メンターとして社会人の方9名に参加頂いた。また、大学生サポーターも5名参加頂いた。 【学校ビジョン委員会】 (2月8日現在) 8回実施。 【学校関係者評価委員会】2回実施 【HP更新】 計34回更新	◎※ ※ ※
働きやすい職場づくり	○チームとして仕事をする体制づくりを進め、業務の効率化を図る。 ○校内体制を見直し、業務の効率化と持続可能性を高める。 【活動指標】 ・定時退校日を月 1 回設定し、設定した日の定時に退校できた職員の割合 80%以上。 ・部活動休養日を週 1 回設定し、予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100%。 ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 70%以上。 【成果指標】 ・年 360 時間を超える時間外労働者数0人 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ数0人 ・一人あたりの月平均時間外労働 30 時間以下 ・一人あたりの年間休暇取得日数 20 日以上	【定時退校日】 定時退校日月 1 回設定 設定した日の定時に退校できた職員の割合 62.2% 【部活動休養日】 週1回実施できた部活動の割合 98.8% 【会議】 放課後開催で 60 分以内に終了する会議の割合 71% 【時間外労働】 ・年間 360 時間超 22名 ・月45時間超 延べ 140 人 ・一人あたりの月平均 24.6 時間 【休暇】 ・一人あたりの年間取得日数 18.3 日	◎※

改善課題

1 年次の総合的な探究の時間において、外部の方と連携した新しい探究活動『自分らしく』プロジェクト」をスタートさせたことや、共通テストで求められる力がはっきりしてきたこと等から、「習得－活用－探究」の学習プロセスの重要性がはっきりと実感された1年となった。そのための授業改善にICTを効果的に活用することも重要である。教員研修やシステム整備のための組織体制を迅速に構築、運用する必要がある。また、そのことで、働き方改革にもつなげていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○社会に出たとき答えが一つでないことにどう対応するか。「自分で考える力」を養うことが重要。外部と協働することで教員にとっても発見があるのではないかな。 ○地域を含めた外部の大人との関わりは大切。話を聞くだけでなく、コミュニケーションを取る機会をしっかりと作ってほしい。 ○校是「向学立志」を常に先生方が意識していることが大切。 ○探究活動をもっと発信した方がよい。
---------------------	--

	○少子化により、大学も学生募集において探究する力を重視し学校推薦型等で多く取る動き。そこへの対応が特色ある学校づくりにつながる。
--	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・新課程開始とともにスタートさせた探究活動「『自分らしく』プロジェクト」を継続し、2年次まで広げる。2年間のプログラムを整備し、「自走」する生徒が育つ仕組みを整える。 ・目標や目的意識を醸成した上での、3年間のキャリア教育計画、進路指導計画を再構築する。 ・主体的・対話的で深い学びの一層の実現のため、教員研修を充実させる。
学校運営についての改善策	・探究活動を外部と連携しながら組織的に進める体制を整備するとともに、予算の確保に努める。また、主体的・対話的で深い学びを実現に向けて、アクティブラーニング型授業を組織的に推進するために、教職員の学び合いを進める。 ・委員会体制を精査し、効果的な運用に努める。必要に応じて統合や廃止を行いスリム化する。 ・業務の効率化に努め、超過勤務の削減と休暇の取得促進に努める